

JIA NAGANO-KEN CLUB

Vol. 93

2012

4.10

JIA 長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/jia-naga@jeans.ocn.ne.jp>

市民に信頼される建築家

震災から1年が経過し復興は緒に就いたばかりです。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

3.11を契機に、これまでの如きに経済活動を最優先していくは、持続的な人類の幸福は望めないと多くの人々が考え始めているように思います。社会の基盤を通貨価値を尺度とする経済発展に置くのではなく、幅広い社会資産の有効活用を通じて、よりソフト面に重心を置いた新たな価値観で支えられた社会を実現しようとする試みです。

そのためには復元力を持ちかつ持続可能な社会をつくることが大切で、建築家としても、地域に密着して息の長い活動をし、建築の社会資本としての役割と效能について社会にきちんと説明することが大切になります。

これからは今にも増して、専門家として地域社会への説明責任に耐えられるかということが、建築家に課せられる重要な課題になってきます。

建築家は建築主の利益と社会の利益をバランス良く実現する社会的役割を担っているはずです。建築家が社会にとって必要とされる背景にはそういった役割への期待があります。

しかし現実はどうなのか。私自身、建築主に対し、次世代に引き継げる資産を残すことは今の時代を生きる私達の責務であると理解してもらう努力を積み重ねているだろうか?と自問し続けています。

JIA長野県クラブ会長 赤羽吉人

昨年秋のUIA東京大会が成功裏に開催されたことは大変喜ばしいことですが、その大会を経て私たちが学んだことは、地域社会の中で建築家の存在はまだ道半ばであるという現実であったように思います。ここ信州の地においても、建築家はまだ市民から遠い存在であるかのように感じられることがあります。

しかし悲觀する必要はないと思います。建築をつくっていくことを通じて、暮らし、まち、地域、そして地球を豊かに築き上げる使命を帯びた者として自覚し、次の時代に向かっていく姿勢が明確に示されていれば、その先に必ず地域社会と共にある建築家の姿が見えてくるとの確信は得られたと思います。

この社会には、建築家にエールを送り続ける多くの人達が居ることも確かです。そういった人達との連携を強めながら、ひたすら地域社会に向けて自分達の情報を発信し続けることにより、次の何かを見つけると思います。大切なことは、本当に市民に信頼される専門家でない限りは、建築家の今後というか、職能の確立はないということです。

4年間、JIA長野県クラブの舵取りを仰せつかってきましたが、無事川上さんに引き継ぐことができてほっとしています。もう暫くは支部、本部での役割が残っていますので、できるだけホットな情報を皆さんにお伝えすることと、地域のニーズを支部、本部に伝えることに力を注ぎます。



文化講演会



会員作品展



学生卒業設計コンクール

建築祭が開かれました

『第6回建築祭』が松本美術館にて3月10日(土)～11日(日)の2日間にわたり開催されました。香山壽夫講師による「文化講演会」、県内の大学・専門学校・高校生の「長野県

学生卒業設計コンクール」、長野県クラブ会員の「会員作品展」など様々な催しがあり、JIA長野県クラブ会員をはじめ、多くの一般市民の方々、大勢の方に参加していただきました。

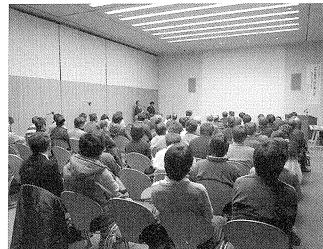


文化講演会に参加して

この文化講演会は毎年楽しみにしています。第一線で活躍する日本を代表するような建築家の話をまちかに聞くことができ、普段の仕事とは次元の違うレベルの世界の話に気持ちがリフレッシュされ、建築学生だったころの自分を思い出させてくれます。特に自分が学生のころから活躍されていた建築家となるとその思いもひとしおです。今回の香山壽夫氏の講演もまさに建築学生にタイムトリップさせてくれました。香山先生の講演を聞くのは十数年前の「彩の国さいたま芸術劇場」で行われた講演以来2回目になります。先回の講演会の後、興奮した気持ちのまま東京大学工学部や聖アンデレ教会を見て回ったのを思い出しました。そしてまた今回の講演ではそのときの気持ちを蘇らせるような建築を作る喜びについて教えていただきました。「建築を作ることのよろこびとは目を使い、手を使い、足を動かし、頭を使う。このように全身を使うものである。これが建築の楽しさ」。日々の仕事の中で忘れていたことを思い起こさせていただきました。そして「人のつながり、家族のつながり、村のつながりは建築でつながっている。建築は明日につながり、希望につながる。」この言葉を聞いて自分が携わっている建築の意味や明るい未来のようなものが見えた気がします。もうひとつ印象的だったのは光の考え方でした。私はあまり好きではない西日でした

轟 真也

が、窓から差し込む西日の壁に当たるやさしい空間や反射した光のやわらかさに気づかされました。以前、聖アンデレ教会で優しい光に囲まれたキリストの像をみたときに感じた柔らかな気持ちがどこから来たものなのかなんとなくわかった気がします。角度の違ういくつかの壁にハイサイドライトの光が当たり反射した柔らかな光が交わる中心にキリストの像が浮いている。そこにいる者も一緒に包んでくれるような空間でした。このような暖かくやさしい空間を私もいつか作れるようになりたいと思っております。今回の講演は建築に携わってきて本当に良かったと思える時間でした。香山先生に感謝したいと思います。



学生卒業設計コンクールに参加して

3月11日 第21回長野県学生卒業コンクールが開催されました。昨年発生した大災害と同じ日に開催ということで何故か朝から神妙な気持ちで参加させていただきました。午前中は専門学校・大学の部の公開審査ということで審査させていただきました。専門学校の部では全員が上田情報ビジネス専門学校の生徒さんで皆さん設計のテーマを身近な問題から抽出し独創的なアイディアでまとめ上げている点に感心しました。おそらく日頃、学校の教育でも日常の中から問題点を探すトレーニングをしている結果ではないかと思いました。大学の部は全員が信州大学の学生といういつもの枠の中での審査になっています。しかし今年は様々な角度から建築本来のデザインや形、光、社会などの視点で提案がされ審査も激戦でした。特に感じたのは全員が、近年の建築が経済成長と共にスクラップ＆ビルトで進んできた時代に歯止めを掛け新しい建築の有り方を考え始めている事に感心しました。但し、少し苦言を言わせて頂くとすれば審査前の事前に頂いていたレジュメに書かれている内容を読んでも何を言わんとして提案をしているのか全く分からない学生が多く、当日プレゼンなどでやっと意味を理解したという状況でした。なかなか紙一枚で全てを伝える事は難しい事は分かっていますが社会に出れば自分を表現しなければならない機

丸山 幸弘

会が増えるので少し考えて頂きたい。午後は高校生の部の審査で開催時期の問題もあり学生の参加が無く残念でした。作品は各学校により設計スタイルの指導方針の違いなどで同じ土俵に載らない物があり選考は悩みました。しかし、高校生らしく地元の問題に向き合い真面目な作品が多く感心しました。今回受賞された方、おめでとうございます。受賞されなかった方、皆さんも僅差で残念でした。今後の皆さんの活躍の一歩になれば良いと思います。今回審査員と言う重責で疲れました。しかし、何故か心地良い気持ちを与えて頂いた作品が多く参加者全員に感謝致します。ご苦労様でした。



学生卒業設計 参加者

長野工業高校

内山仁志・宮下 泉・宮島大樹・原山雅也

上田千曲高校

荒川尚輝・池内太鵬・竹花裕希

飯田長姫高校

水上綾子・村山嬉恵・林 積太・齊藤竜弥

上田情報ビジネス専門学校

水野勇太・土屋友佳・荻原智信・角田桜子・橋詰沙也香・平林玄気

信州大学

風間照子・立松裕規・寺澤草太・鳴海敬大・松本知佳・峯村廣紀・渡邊良太

(審査講評)

(香山 壽夫)

皆さんの発想やとらえ方がそれぞれ個性がありとても感心しました。いくつかの学校から卒業設計の批評に呼ばれ、作品を見せていただく機会がありますが、学生が流行のかたちを皆同じように作ってきて、自分とは違う世界や考えが見れる期待が満たされないので今は断り続けています。実のところ、今回は美しい山のふもとに来られるかなというつもりで来ましたが、作品が一つひとつみんな個性があって非常に面白い。いいものを見せていただき、審査に参加させていただいて本当に良かったと実感しています。

コンクールですから一番二番という賞はつきます。しかし、作品としての優劣はなかなかつけられません。順番をつけるのは社会性、着眼点、完成度、造形力、話題性等多くの評価軸があります。評価軸のどこに重心を置くかによって順番は変わってしまいます。今回賞がもらえたかった人もがっかりしないでもらいたい。今回の評価を次のチャンスに活かしてもらいたいと思います。

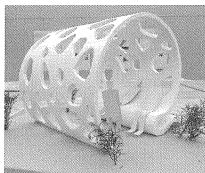
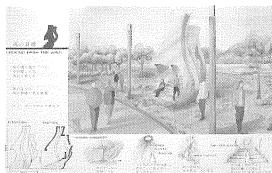
卒業設計というのは学校で勉強してきたことの最後の締めくくりです。学校の課題はテーマや条件が与えられて、それに対する答えを自分で考えていくもの

です。しかし卒業設計は初めて自分なりに問題を設定し、自分の関心のあるテーマや、興味のあること、あるいは今の社会に対する考え方など自分の世界に対する関心を最初に表明できるチャンスです。今皆が発展点に立ったところです。この最初の評価はほとんど差がない。またどこかで作品を見せていただく機会があると思いますので楽しみにしています。

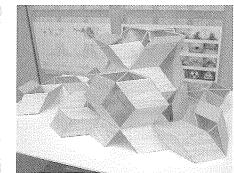
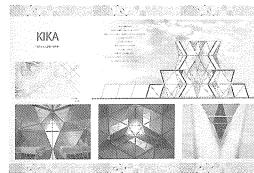
(この原稿は学生コンクール当日、香山先生の審査講評を広報委員会で記事にしました)



金賞受賞者



上田情報ビジネス専門学校 角田 桜子



信州大学工学部建築学科 風間 照子

自分の作品に対して、たくさんの方の様々な目線から見た意見が聞くことができ、とても良い経験となりました。自分で見えていたことに気付かされたり、自分のこれから課題が見えたりする良い機会になったと思います。私は街の中に感性や心を豊かにし、想像力のヒントを得られる場を作りたいという思いからこの休憩所の設計に取り組みました。固まってしまった頭の中の状態は休息することによって解きほぐれていき、また立つ位置が変わると物の見方や考え方方が変わり、いつもと違う感性が目覚めるかもしれません。

こういった考え方から、普段とは違う目線で世界を見てみる新たな形の休憩所を提案しました。私たちがより豊かに人間らしく生きるために基盤となる感性…その重要性に多くの人が気付くきっかけとなる建築を目指しました。

卒業設計を通して自分の思いを形にしていく素晴らしい経験ができたと思います。本当にありがとうございました。

私は幾何学がとても好きで、これまでの設計課題にも無意識のうちに幾何学を多用してきました。今回の設計は卒業設計ということで、おそらく人生最後の自由設計になるだろうと思い、自分がなぜ幾何学を好きなのかを考えるところから始めました。たくさんのスタディ模型を作りながら、幾何学の性質の面白さや美しさを改めて感じ、悩みながらも心から楽しんでいる自分に気がつきました。この設計に取り組んだあの3ヶ月間は、自分自身と本当に向き合うことの出来た貴重な時間であったことを今実感しています。審査前日の香山先生のご講演の中で、「時代に対してなにか支配的な答えがあるのではなく、数えきれないほどの思想が渦巻き廻り続ける中で、自分を見つめ、自分がいいと思うことや手応えを感じられることを納得するまでやることが大切だ。それは変わるものかもしれないが、変わったたび見つめ直せばいい。」というお話をあり、とても心に響きました。このお話を、設計に限らず人生において道に迷ったとき、一歩踏み出すための強い心の支えとなることだと思います。本当にありがとうございました。

第21回学生卒業設計コンクール 審査結果

高校の部

金賞

飯田長姫高校

ミズカミ アヤコ
水上 綾子

「本棟造り」で地域の暮らしと景観を創造する
～平成の本棟住宅とリニア新幹線飯田駅
マスタープランの提案～

銀賞

長野工業高校

ミヤジマ 大樹
宮島 大樹

ふらっと寄れる美術館

銅賞

長野工業高校

ハラヤマ 雅也
原山 雅也

Vertical 蔵春閣の再生

奨励賞

長野工業高校

ウチヤマ 仁志
内山 仁志

地附山美術館

専門学校の部

金賞

上田情報ビジネス
専門学校

ツノダ サクラコ
角田 桜子

キミハココデナニヲオモウ

銀賞

上田情報ビジネス
専門学校

ハシヅメ サヤカ
橋詰 沙也香

ココロとカラダのおいしいごはん。
～食のあり方を見直す、街のなかのレストラン～

銅賞

上田情報ビジネス
専門学校

ヒラバヤシ グンキ
平林 玄氣

+CIRCLE

奨励賞

上田情報ビジネス
専門学校

オギハラ トモノブ
荻原 智信

過去と未来を繋ぐ町

大学の部

金賞

信州大学

カゲマ テルコ
風間 照子

KIKA～人と图形と建築の関係性～

銀賞

信州大学

ナルミ タカヒロ
鳴海 敬大

damX museum

銅賞

信州大学

テラサワ ソウタ
寺澤 草太

折りたす空間

奨励賞

信州大学

ミネムラ ヒロキ
峯村 廣紀

木で建築をつくる

審査員

香山壽夫(審査員長)・上浪 寛・松村和雄・金子晴俊・渡辺安徳・丸山幸弘・赤羽吉人

(会員作品展を通じて)

長島 三夫

25名のパネルと賛助会員、そして説明パネル等で会場の壁面が飾られました。反対側に配置された卒業設計展の夢のような計画案と違って、夢を現実化してそれぞれの意気込みが込められたパネルがこれだけ並ぶと、建築の答えがたくさんあるものだと感じてしまう。この答えを会員の中だけでなく一般の方にも聞いていただき、設計者の真剣を感じてもらいたいと思うのは私だけではないと思う。学生に対しても、設計活動の素晴らしさを感じてもらえる場もあるため、学生の聴講参加もしてもらいたいくらいの発表でした。

パネル一枚で伝えることも難しいことですが、設計者の個性がみられ説明を聞くことでより一層の理解を深めることができて楽しい一時です。が、自分の発表の番になると緊張する瞬間です。そこで、悩んだことの他の解決策を見つけられるいい機会もあります。

この作品展は、設計者本人から建築主、建設地、そして建物の想いを同じ業を営む仲間の前で語り、仲間の話を聞くことによって自分を見直す良い機会だと思います。ここで、いろんなヒントをもらい、これから設計活動におおいに活かしていこうと思います。



会員作品展参加者

赤羽 吉人	甘利 享一	荒井 洋	新井 優	小川原吉宏	尾日向辰文	片倉 隆幸
川上 恵一	菊池 弘之	君島 弘章	倉橋英太郎	清水 国寿	武田 誠彦	児野 登
轟 真也	長島 三夫	野口 大介	林 隆	広瀬 納	福島 透	藤松 幹雄
松下 重雄	丸山 和男	丸山 幸弘	山田健一郎	吉田 満		

(建築祭を終えて)

菊池 弘之

第6回建築祭は大雪と、昨年の東日本大震災の影響を思い出しながら始まりました。松本市美術館との共同事業になってから、4回目を迎えた過去の経験から、準備・設営に関しても、だいぶ慣れてきた感じがします。

一日目の、文化講演会では、香山壽夫先生の、人間味溢れる暖かい人柄に心を洗って頂いた気がします。こんな私でも…いや、汚れている私だからか…

2日目、昨年の長野県学生卒業コンクールで、最優秀の竹之内美美さんは、全国学生卒業設計コンクールにおいても、審査員賞(工藤賞)を受賞され今年の作品も、力作が揃い、今年6月に開催される全国学生卒業設計コンクールにおいても、高評価を頂けるのではないかと期待しています。

事務局も、今年が初めてとは思えないくらい、そつの無い対応・気配りに感謝

します。遠方よりお越しいただいた、香山先生・審査員の皆さま・会員・賛助会員・事務局ご参加頂きまして、本当に有難うございました。



(会員の集いの報告)

北原 一樹

須田考雄さんのお話しをお伺いする機会を得た。西日が部屋の奥まで差し込む時間、話しあはる人柄そのままの静かに語りかけるような口調で始まった。

はじめご自身の経歴を話された後(詳細については『信州の建築家とつくる家8』に記載されているのでそちらを読んでいただくとして)、その締めくくりに「建築は魅力のある仕事」で「建築(家)という仕事(を選んだ人)はしあわせではないか」と話されたのが印象的だった。たぶんいろいろと語られない苦労がそこにあったとしてもそれをも包み込んだ上で、しあわせという言葉で建築という仕事を表現されておられた。50歳を目前にして組織事務所から独立された理由について、自由な時間を得るために。その自由とは自分勝手なデザインをするということではなくて、精神の自由とでもいべきもの上に成り立つデザインの自由のことであって、その在り方は鬼頭梓さんの言葉にあった『プロフェッショナルとしての建築家』ということであろう、それを須田さんは端的に「建築家の社会的使命」という言葉で表されておられた。

たとえとして材料について、時間的に長く使えるいいものを選ぶこと、そのためにも広い知識が必要だと、それを雑学と呼んでおられたが、材料の選択にしても人まかせにしない、そして長期

的なものの見方を持つこと、そうしたことの大切さを指摘されておられた。それはもちろん材料だけではなく構法とかデザイン全般にわたってのことであり、それを「ゼロから考え直す」「創意工夫」という言葉で表現されていた。つまり惰性に陥らない、マニュアル化しないということであり、ゼロからを繰り返すことが本当のデザインの自由へと繋がる道だということを。

建築家の社会的使命という道に達するためにデザインの自由という広がりをうまく使いこなしなさい、そのように要約させてもらつていいのか確かではないが、日々の流れに埋没し忘れてしまいがちな、そうした大事なことに気付かせていただいたこと、そのことに感謝した一日でした。



任期を終えて

ご協力ありがとうございました

総務委員長 林 隆

一期二年間にわたり総務委員会の活動にご協力いただきましてありがとうございました。正会員・賛助会員の皆様方に改めて御礼を申し上げます。主な活動としては総務委員会・幹事会・総会・夏冬セミナーの運営でした。特別新しい取り組みもできず書類づくりやメール配信など事務局の佐藤さんが担ってくれた部分も多く私はたいした仕事もしないまま過ぎてしまいました。

各活動への参加の呼びかけ、広報活動との連携、新入会員の増強などもつと積極的にするべきだったかと今になって思います。県クラブの活動への参加

者が少なくいつも同じメンバーが集まる現状は少し残念でもあります。会員各自が自発的に活動に参加してみたくなるような長野県クラブになれば理想なのかもしませんが、なかなか難しいことです。

大きな指針を示してくれた赤羽会長と総務委員会担当の川上副会長、議事録の丸山副委員長、先を読み早い対応の事務局佐藤さん、そして時間を忘れて熱く語る総務委員の皆様方、本当にありがとうございました。

広報活動を通して

広報委員長 勝山 敏雄

多くの方に支えられて、広報委員会を担当させていただいたと感じています。今年度で90号を超えた長野県クラブの歴史を感じさせる会報の発行。長野県クラブの事業報告を中心にまとめ、特に皆さんに単なる感想文でなく、外向きの情報発信をしていただくように心がけました。誰に何を書いていただくかいつも悩みながら、時には無理なお願いをしながら書いていただいたこともあります。原稿の執筆にご協力いただいた皆さんに感謝いたします。ホームページは以前からの構成を踏襲しながら、一年かけて大幅にリニューアルしました。会員・賛助

会員名簿の掲載、お知らせ、会報や書籍案内等皆さんと議論を重ねながらやっと長野県クラブのホームページのかたちができました。皆が気軽に使えるホームページを目指して、全体構成を考えました。長野県クラブの事業のお知らせのみでは更新頻度が限られてしまうので、皆さんの積極的な活用を呼びかけましたが、自発的に情報を提供してくださるのがなかなか難しいと感じました。様々な局面でサポートしてくださった方々に感謝します。

任期を終えて

会員委員長 新井 優

正会員と賛助会員の交流の活性化を託された会員委員会でしたが、満足な結果を残す事は出来ませんでしたが、の中でも木材関係の賛助会員を主体としたシンポや環境関連の技術交流会を企画しました。今後はさらに目的を絞った交流を形にしていくことが課題です。昨年の会員作品展は3・11翌日でもあり、あの日の雰囲気は忘れる事が出来ません。出品者の建築に対する情熱と自然災害での建築の傍さが入り交じった無常感は、今年の建築祭での香山壽夫先生のお話で救われました。「なぜ建築をつくるのか・建築をつくる行為と

はなにか」を大先輩に教えられました。人生の先輩の経験に学びたい・仲間と本音で語り合いたい。その様な思いで始めた「会員の集い」は任期中に四回開催。当クラブ会長経験者の建築家人生や造り手としての考え方方に教えられ、その後の宴席で広がる青臭い建築談義。私の大先輩の言葉「jiaに育てられた…」今後は後進の皆様にその様な経験が出来る環境(行事)を生み出していく事が、各委員長に課せられた課題と思う今日この頃。今後多くのご参加で長野県クラブを盛り上げましょう!

「空気を読む沈黙」は無かった

出版委員長 清水 国寿

昨年は悲しいことに、日本史に残る東日本大震災がありました。そして世界史に残る原発事故。それにより炙り出された「原子力ムラ」と言う人間集団。その体質は日本社会独特のものだったという。一人一人は安全対策に問題があると思っていても、自分が何か言ってもしょうないと、みんなが空気を読み合っていたという。この体質が厳しく批判されているのはご存知の通り。

出版委員会は短期間に他の委員会の2~3倍もの回数の委員会を開くハードな委員会です。日々の仕事に忙しくとも毎回県内各地から集まり、出版物のあり方について、議論を重ね会員の仕事を「信州の建築家とつくる家」という

一つの本に結実させてきました。出版というものの性格でしょうが、委員には期限までに仕上げなければという義務感、切迫感があり、「空気を読み合う」余裕は無かった。出版委員会は、本音のぶつかり合いによって迷走しながらも、「原子力ムラ」よりはずっと質の高い集団であった、と今思えば言えるのではないか、たぶん。

本音で語るというJIA長野県クラブの無骨な体質をこれからも続けてもらいたいと思っています。

まちづくり委員会活動を振り返って

まちづくり委員長 西澤 広智

私がまちづくり委員長になって初めての「まち並みウォッチング」で見学した「長野市民会館」はすでに解体され見学した当時の姿は無い。今年もJIAとして、松本の「山崎医院」「新村駅舎」の保存要望書を提出し働きかけを続けていますが、建築的価値があるから「残せ」だけでは残せない難しさを感じます。

任期中のこの二年間、年2回の「まち並みウォッチング」と、「残したい建物リスト」「信州の建築100選」の整備等の活動を行ってきました。これらを通じ「まちづくりに建築家がどう関わるか」についてみんなで考え、いろいろな事例を通して学

び、方法・しくみを考える機会が多少でも持てたとすれば幸いです。

来年度以降、これらの活動から、会員諸々が貴重な建物・景観を現代に活かす知恵を育て、単なる保存運動ではなく、会員それぞれが保存方法・まちづくりの提案をして行くことに関われたら素晴らしいと思います。また、賛助会員との交流のよい機会である「まち並みウォッチング」にもっと大勢の方に参加していただきたいと思います。

事業委員会の社会的役割

事業委員長 藤松 幹雄

事業委員会を担当し「建築家の使命と役割」を社会や次世代にどのように伝えていくか考えさせられた4年間でした。その中で大きな力となったのが松本市美術館との共同事業、見つめよう暮らしの場「ひと・まち・建築」は今までありません。共通テーマのもと得意分野の資源を出し合い協力し合うことで、より密度の高い事業になったと思います。講演・セミナーでは4年間で10名のそうそくする方々から建築、まちづくり、芸術など多岐にわたる講演を聴講することができ

ました。地方都市でこのようなプログラムが実現できたことは地域環境の質の向上に資する啓発・普及事業であったと思います。当会のコンクールで金賞を受賞した信州大学竹之内栄美さんの「一枚布の家」は平成23年度JIA全国卒業設計コンクールで工藤賞を受賞し当会としても喜ばしい事でした。文化講演会もコンクールも20年を越え「継続は力なり」で広く社会に浸透してもらいたいと思います。

素晴らしい仲間に囲まれて

UIA大会準備特別委員長 片倉 隆幸

素晴らしい仲間に囲まれた委員会でした。赤羽会長を中心として山口担当副会長のもと長島さん、吉田さん、石澤さんの3人の副委員長を主軸に委員会の皆様、会員の皆様そして支部の皆様に助けていただき心から感謝申しあげます。当初企画されていた長野ツアーは中止になりましたが、災害を乗り越えようというUIA大会のテーマが絞られ大会への参加意識が高まり、大変良かったと思います。UIA2011東京大会は天皇皇后両陛下の行幸賜を賜り、東京国際フォーラム ホールAにて開会式が行なわれ、長野県クラブから26名が参加

できたことを大変誇りに思います。重複するプログラムが多く、参加内容も限定されてしましましたが、日本型の次世代に向けた建築家のあり方を「建築家宣言」という形にて世界にむけて会場全体から発信、歴史に残る一員になれたことを大変うれしく思います。今後も会員相互の連携を密にし、豊かな社会資産としての建築をめざし、建築家職能の確立に向けて微力ながら頑張っていきたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い申しあげます。

賛助会だより

アンデン東京は、寺社・古民家に最適な耐震補強をご提案します！（株）アンデン東京 長野営業所 古畠 威光

アンデン東京では、耐震補強建材の「仕口ダンパー」と「荒壁パネル」を商品軸に営業展開しております。これらの商品は、寺社・古民家から一般住宅まで木造軸組工法の耐震補強に効果を発揮します。「仕口ダンパー」とは、2枚のステンレス鋼板の間に特殊技術で粘弾性体を接着した制震装置で、地震力を吸収して建物の揺れを軽減させます。大きさ15cm、20cm、30cmと幅広いラインアップで各建物に対応し、特に寺社や古民家等の外観を大幅に変更でき

ないケースの耐震改修に最適な装置として多数の施工実績がございます。「荒壁パネル」とは、土壁などの壁下地となる荒壁を乾式パネル化した壁材で、大きく変形しても著しく耐力低下を起こさず粘り強い特性を持っています。仕口ダンパーとの相性がよく、併用すれば相乗効果が期待できます。壁倍率は両面張りで2.6倍の認定を受けております。また、土・紙・木など安心素材のため、シックハウス対策にも有効で、幼稚園の園舎にも複数の採用実績がございます。

〒392-0012 諏訪市四賀489-2 TEL:0266-75-2787

鐵とともに限りない夢へ挑戦しつづける

社は、明和年間(1760年頃)に鍛冶・金物を業とした店舗を善光寺門前に構えたことから商売が始まりました。現在では様々な分野にて、創業当初からの鉄の商売を中心に行っています。建築分野では、主に「鉄筋・鉄骨工事」を手掛けています。特に鉄筋工事は全国でもトップレベルの技術水準を持ち、難易度の高い工事実績を数多く上げています。建築以外では、橋梁・歩道橋の製作・施

グループ鍋久 トライアン(株) 林 秀樹

工、金属素材の販売・加工、土木資材の販売なども手掛けています。

グループ会社には、ガラス繊維補強製品を取り扱うGFP JAPAN(株)や、水道・ガス本管工事および内管工事などを行っているライフライン長野(株)、スーパー銭湯「湯遊びひろば ぶらっと」を手掛ける(株)プラットなどの様々な会社がありますので、ぜひ一度HPをご覧ください。<http://www.tryan.co.jp/>

〒381-0026 長野市松岡2-6-18 TEL:026-251-1600

県産材のより一層の活用を

「信州からまつ」を主とした針葉樹を扱ってまいりました。その昔は土木用材でしかなかった厄介者。独自の乾燥スケジュールや資材管理により、皆様に安心してご使用いただける製品作りをめざして、日々努力致しております。構造材・内外装材としてカラマツ・あかま

(有)ナチュラルウッド 南波 健一

つ・杉等を取り扱わさせていただいており、製品の多くは床暖用床材としてご使用いただいております。弊社は小さな工場ですが、より良質な製品づくりをめざして努力してまいります。ご指導の程よろしくお願い致します。

〒386-1106 上田市小泉910-5 TEL:0268-29-8381

地盤・地質の総合コンサルティング事業=土のことなら何でも!!

(株)日建エンジニアリング 加賀 修

私たち日建エンジニアリングは地質・土質調査の専業として歩んできましたが、時代のニーズの多様化に応え、住宅の地盤調査、測量、地盤補強工事などにも活動領域を広げてまいりました。これ

からも、土に関する総合コンサルティング業務や環境調査、対策工事等、これまで築きあげた実績と厚い信頼を生かし、より一層皆様のお役に立つよう歩んでまいります。

〒390-0848 松本市両島7-16 TEL:0263-26-5540

長年の信頼と実績、確かな施工、迅速なアフターサービス

(株)日創建材 橋本 光弘

私たち日創建材は、主にビル建築などのアルミサッシをはじめとしたスチールドアや外壁パネル類の金属工事などの施工を主体とした会社です。確かな施工技術、きめ細やかな対応、迅速確実なアフ

ターサービスの励行などにより、創業以来45余年、信頼と実績を積み重ねてまいりました。

これからもお客様第一主義を貫いて参ります。

〒381-2247 長野市青木島 1-18-13 TEL:026-283-1414

“よりよい生活環境の創造をめざして”

日本エンバイロケミカルズ(株) 柏原 亨

弊社は“よりよい生活環境の創造をめざして”をテーマに活性炭事業と保存剤事業を手がけ、2003年に武田薬品工業から分社発足し、現在は大阪ガスグループの一員です。弊社の主力製品は、優れた防腐・防カビ・防虫効果と高耐候性を持った木材保護塗料「キシラデコール」です。発売から40年を越え、多くの方々にご愛顧いただいてきました。JASS18 M-307にも認定され、木材保護塗料としての性能の高さは当然ながら、第三者機関による安全性試験など各種

試験による結果がこれほど充実しているのは「キシラデコール」だけと自負しています。また、「キシラデコール」の性能はそのままに低臭性ニーズにお答した「フォレストージ」、高耐久性水性木部用塗料「コンゾラン」、重要文化財などに40年以上の実績をもつ防腐・防蟻剤「キシラモン」など、お客様のニーズに答えながら、「木」を守ることで地球環境に貢献していきたいと考えております。

〒105-0014 東京都港区芝2-5-10芝公園NDビル TEL:03-5444-9880

■今後の行事予定

4月21日(土)…2012年度通常総会

会場：ホテル国際21 長野県県町576

■お知らせ

受賞おめでとうございます。

☆JIA環境建築賞 住宅部門優秀賞

りんご並木のエコハウス

設計者：新井 優(新井建築工房+設計同人NEXT)

編集後記

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／勝山敏雄 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

発行人／赤羽吉人

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp